

炉心確認試験(試験項目数:約 20\*)

目的	概要	実用化技術への成果反映
<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期停止したプラントの炉心状態確認を行う。</li> <li>・燃料中のPuが壊変し生成したAmを比較的多く含有する実炉心での物理データを取得し、将来FBRの研究開発に活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原子炉を臨界状態にして、Amを含有する炉心の制御棒価値、温度係数などの物理データを測定し、炉心の特性を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Amを含有する炉心データに基づく設計手法を検証し、実用化プラントの炉心設計への適用を図る。</li> </ul>

40%出力プラント確認試験(試験項目数:約 90\*)

目的	概要	実用化技術への成果反映
<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期保管状態であり、かつ設備改造後である水・蒸気、タービン系統について、プラント全系統の機能確認・性能確認を、40%出力までの運転状態で実施する。</li> <li>・水・蒸気、タービン系を含めた全系統の起動を通じてプラント運転保守の習熟を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後製造する新燃料を加えた炉心で、40%出力までの運転状態での試験を実施する。</li> <li>・核加熱による水・蒸気タービン系の動作試験を行いながらプラント出力を40%とし、プラント全系統の性能を確認する。</li> <li>・水・蒸気タービン系を含めた全系統の起動を通じてプラント運転保守技術の習熟を行う。</li> <li>・Amを含有する炉心の燃焼特性などの物理データを測定し、炉心の特性を確認する。</li> <li>・確認試験に基づき、引き続いて行う出力上昇試験が実施できることを評価・確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Amを含有する炉心データに基づく設計手法を検証し、実用化プラントの炉心設計への適用を図る。</li> <li>・FBR設計手法を検証し、実用化プラントの設計でのプラント運転制御性や安全評価等における最適化に反映。</li> <li>・得られた設計評価上の知見(余裕係数の考え方等)を実用炉設計手法高度化へ反映。</li> </ul>

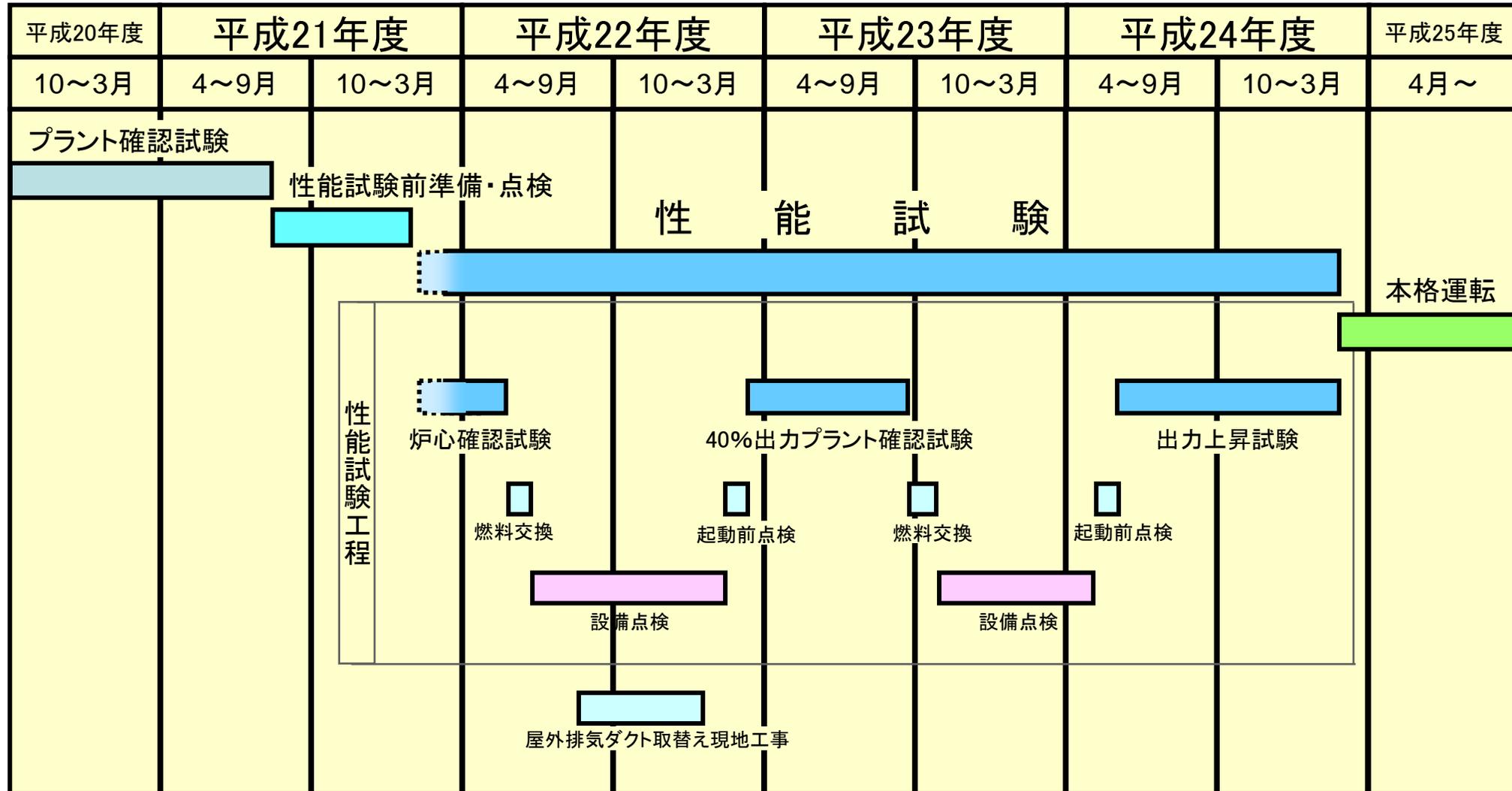
出力上昇試験(試験項目数:約 110\*)

目的	概要	実用化技術への成果反映
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本格運転に向けた出力上昇及び100%出力時におけるプラント性能を確認するための試験を行う。</li> <li>・水・蒸気、タービン系を含めた全系統の起動を通じてプラント運転保守の習熟を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・100%出力運転のための炉心構成を行い、臨界試験後、40%、75%、100%として炉心特性、プラント特性データを取得する。</li> <li>・水・蒸気、タービン系を含めた全系統の起動を通じてプラント運転保守の習熟を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・FBR設計手法を検証し、実用化プラント設計でのプラント運転制御性や安全評価等における最適化に反映。</li> <li>・得られた設計評価上の知見(余裕係数の考え方等)を実用炉設計手法高度化へ反映。</li> </ul>

\* : 複数の試験段階で実施する試験項目がある。

# 性能試験 工程

平成21年12月8日記者発表



\* 1 試運転再開(性能試験再開)は、地元のご理解を得て進めてまいります。